

▶親戚や知人から贈られた花に囲まれた長谷部さん



2度の大災害乗り越えて元気に

長谷部ヤスさんは大正3年7月3日に旧樺太庁真岡町で、酒造業と漁業を営む家に10人兄弟の長女として生まれました。同地で結婚し、終戦に伴い北海道岩内町へ引き揚げました。親戚がいる石巻市へ移り住んだのは昭和42年です。夫婦で開業した居酒屋は、長年地域の人たちに親しまれています。

5年ほど前まで店の帳簿をつけるほど元気で、趣味の詩吟で磨いたのどを今も披露することもあります。健康の秘訣については「何でもよく食べる」と語ります。これまでの人生で、北海道では市街地の8割を焼失した岩内大火(昭和29年)、石巻では東日本大震災と2度の大災害を体験しました。それらを乗り越えて100歳を迎えたことについて長谷部さんは「特に何ということはないです。周りの様子を見てすごいことだと思いました」と話していました。



長谷部ヤスさん 100歳
(石巻地区・南光町)

「オーリンクハウス 生け花サークル」は、雄勝地区の仮設団地に暮らす皆さんが集まり今年7月に誕生したばかりのサークルです。会員たちは仮設住宅でも生けられるコンパクトサイズの作品に取り組んでいます。

稽古は月2回、オーリンクハウスで行います。植物の自然の姿を生かしながら、各自が美しくアレンジを加えていくのが教室の特徴です。講師は「生活の中に生け花で彩りを添えて、心の安らぎにしてみたらえれば何よりです」と話します。名振地区の永沼あけみさん(52)は「稽古後に皆さんとお茶っこ飲みをして交流するのも楽しみの一つです。いつも作品を眺めながら感想を述べ合っています」と笑顔で語っていました。



花とふれあい心に安らぎ 稽古後のお茶っこ楽しみ

オーリンクハウス 生け花サークル

みんなのた場



▲生け花の基礎を学びながら楽しく稽古に励みます

サークルでは現在、会員を募集しています。詳細は雄勝まちづくり協会(☎90

13770)までお問い合わせください。



明治時代の河川管理 —北上川舟運と治水—

石巻市文化財保護委員 勝亦浩之

明治時代は河川をめぐる状況が大きく変わった時代でした。明治前期の北上川河口は、石巻から流域各地へ物資を輸送する和船や蒸気船で賑わっており、石巻・一関間の航路を定期的に運行していた北上廻漕会社など多数の廻漕業者が北上川舟運で利益を得ていました。明治10年代までの河川流域は、交通・運輸面で恩恵を受けており、治水費は「受益者負担」の原則のもと、流域町村が負担するのが一般的でした。県議会では、北上川は「宮城県ノ川」であるとして、県全体での治水費負担を求める県議員もいましたが否決されています。

が施工され、県内の他の河川も県が治水計画を策定していきます。

明治時代、鉄道開通や大災害の発生をきっかけとして、流域町村が管理すべきものから、県または国が管理すべきものへ、河川管理のあり方が大きく転換したといえます。

参考文献

- ・「石巻の歴史」第5巻(1996年)
- ・「宮城県議会史」第1巻(1968年)

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを全て掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

秘書広報課(内線4023・4025) 〒986-8501(住所不要)
ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



石巻地区
大型客船「につぼん丸」が寄港
6月12日(木) 石巻港



首都圏からのツアー客約300人を乗せた大型客船「につぼん丸」の寄港に合わせて、市等で組織する石巻港大型客船誘致協議会は歓迎セレモニーを開催しました。岸壁には石巻地方の観光PRコーナーが設けられたほか、特設テントではホタテの炭火焼きや石巻専修大学の学生たちによる石巻焼きそばも振る舞われ、船から降りた乗船客が舌鼓を打っていました。

石巻地区

7月16日(水)
旧市役所本庁舎

長年の行政拠点 解体へ



市役所旧本庁舎(日和が丘一丁目)の解体工事が始まるのを前に安全祈願祭が行われました。昭和33年3月に完成した旧庁舎は、市役所が平成22年3月に石巻駅前に移転するまで、半世紀にわたり行政機能の拠点として活用されていました。解体後の跡地には、「寿楽荘」を併設した復興公営住宅を建設し、地域の交流と定住の場として生まれ変わります。